

京極家根本被官

今井一族の墓

西円寺(米原市西円寺)は、今井一族の菩提寺です。今井氏は、京極家の根本被官(古くからの家臣)で、坂田郡南部の箕浦に城を構えていました。箕浦は、古代からの要港である朝妻湊につながる東山道からの舟運と、中世の北国街道が交わる要地で、市が開かれる場所でした。

江戸時代に編纂された地誌『近江輿地誌略』に「今井肥前守塚西圓寺の田の中にあり、一株の杉樹を印とす。又今井權六墓は西圓寺の半腹に在り」と書かれています。現在、肥前守塚は確認できませんが、かつて水田中に1基の碑があり、碑面に「今井月西居士 常西居士 賢西居士」とあり、天保3年(1832)の建立だったと伝えられています。月西居士は今井肥前守秀俊で、天文2年(1533)、京極氏の名を借りた浅井亮政により、六角氏に内応したことを責められて神照寺で自刃しました。常西居士は今井定清の法名で、永禄4年(1561)に太尾山城への夜襲で、味方の手兵に誤って討たれています。今井權六の墓は、西円寺山腹にあり、「天正一二年(1584)三月十四日 賢西禪定門大雄山」と刻まれています。これは、定清の嫡子今井權六秀形(幼名小法師丸)の墓石です。秀形は羽柴秀吉に仕えましたが、天正11年(1583)伊勢出陣中に嶺城で戦死し、今井氏の嫡流は滅びました。

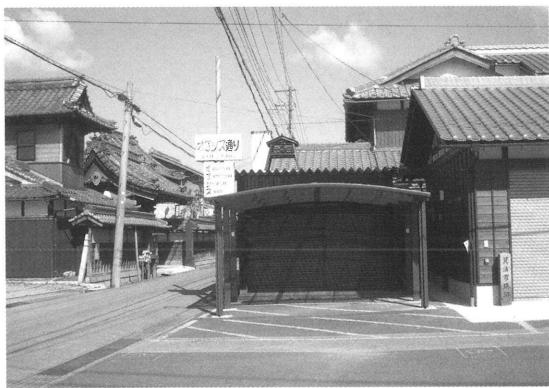




今井権六墓銘



西円寺



箕浦市場跡



箕浦城今井屋敷跡

今井氏

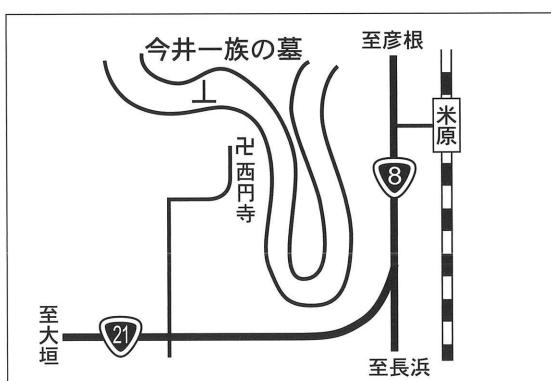
清和源氏の流れをうけた、藤原秀郷（俵藤太）の後裔である今井氏は、箕浦に定住した今井九郎進士俊綱を祖としています。近江守護京極氏の根本被官で、代々国人領主として多くの土豪を家臣に従えました。その武功を記した「今井軍記」が知られています。西円寺は四代目の六郎左衛門達俊が、学僧仁空を招請して開山とし、菩提寺としました。



箕浦城跡概要図

箕浦城跡

近江地域（旧近江町域）特有の方形居館のなかで、きわめて大規模に構えられたのが箕浦城跡です。天野川北岸に井戸村屋敷・奥屋敷・新庄城が横一列に構えられました。現在も城主今井氏の居館跡が水田の中にのこっています。



今井一族の墓

■ 所在地 滋賀県米原市西円寺

■ アクセス JR東海道線米原駅下車。徒歩約60分。

米原市教育委員会

〒521-0242 滋賀県米原市長岡1050-1
TEL.0749-55-8020 FAX.0749-55-4556

平成23年度 埋蔵文化財活用事業